

## ツマベニチョウだより 第 26 号

### 山川町でツマベニチョウ・サミットが開かれました

鹿児島県山川町の大和田靖憲様（町会議員でペンション経営）の呼びかけで6月7日に「ツマベニチョウ・サミット」が開催されました。大和田様たちは町を代表するチョウといいながら盛りあがりにかける保護運動を憂慮して、1年前から愛好者数人で「ツマベニチョウに感謝し協力する会」をつくり活動を続けられてきたそうです。ツマベニチョウ・サミットは「ネットワークづくりの第一歩に」と願って開かれた由です。

開催場所は山川町立図書館の研修室で13時から17時迄でしたが、13時のオリエンテーションに続いて15時までツマベニチョウが生息または飼育されている山川駅や徳光小学校の現地視察の後に、熱心な研究報告や質疑応答が行われました。

#### パネラーの主な方

福永正夫様・・・二十数年前からツマベニチョウの増殖に努められている方  
大和田靖憲様・・・ツマベニチョウに感謝し協力する会の会長  
中島俊郎様・・・ツマベニチョウに感謝し協力する会の会員で今回の司会者  
西 義信様・・・福永様とツマベニチョウの増殖に努められている方  
溝口恒雄様・・・『ツマベニチョウの世界』の著者でツマベニチョウの権威者  
今村俊一様・・・指宿市の小学校でチョウのクラブ活動を指導されている方  
馬場一吉様・・・屋久島でツマベニチョウの増殖に努められている方  
室屋瀧雄様・・・宮崎市でツマベニチョウの増殖を支援して下さっている方  
海老原秀夫・・・日南海岸におけるツマベニチョウの現状を報告しました

#### その他の参加者

山川町教育委員会の職員をはじめ町内の小中学校の先生方、鹿児島県立フラワーパークの職員の方など官界の他、県南各地（隣接の市町はもとより大隈半島の大根占町を含む）から一般の方が参加され、遠くは埼玉県の方も見えていました。

今回のサミットの出席者は50名、一般参加者は40名で盛況でした。

### ギョボクの苗をたくさんいただきました

5月9日に山川町の福永様からギョボクの2年生苗(実生)36本が届けられました。

山川町のツマベニチョウ・サミットの帰りに、指宿市の高崎成昭様から実生の3～5年苗200本をいただき、義兄の室屋瀧雄様が宮崎まで運んで来て下さいました。室屋様はそれらの苗を時をうつさず猪崎鼻と、内海の大園へ届けて下さいました。

### ギョボクの苗などを寄贈しました

今年の4月25日以降次のようにギョボクその他の苗を寄贈しました。

鵜戸中学校へヒメノウゼンカズラ 10本  
サンメッセ日南へランタナ 50本、ヒメノウゼンカズラ 25本、デュランタ 2本  
潮小学校へランタナ 7本、ギョボク 3本  
同上のPTAの方へギョボク 5本  
オーシャンヒルオートキャンプ場へギョボク 150本、ランタナ 60本  
デュランタ 10本、ヒメノウゼンカズラ 5本  
猪崎鼻へギョボク 66本

### ツマベニチョウの羽化が相次ぎました

今年の4月5日以降に成蝶になったツマベニチョウが潮小学校ほかで産卵しました。それが孵化して幼虫になり、それぞれ蛹になって6月5日に潮小学校で羽化したのを皮切りに、下記のとおり各地で成蝶になって空または飼育舎に放ったとの朗報が相次ぎました。

潮小学校・・・・・・・・・・6月5日～6月19日に 10、 3 計13頭が空へ  
宮浦の大海ドライブイン・・6月12日～19日に 6、 4 計10頭が空へ  
鵜戸中学校・・・・・・・・・・6月11日～19日に 23、 12 計35頭が空へ  
猪崎鼻・・・・・・・・・・6月18日までの間に 6、 4 計10頭が飼育舎に  
南郷の亜熱帯作物支場・・・6月13日～19日に 4、 5 計9頭が飼育舎に

このように総計77頭ものツマベニチョウが羽化したのは、偏に卵をあたたく見守り、アリやアシナガバチなどの天敵を防いで下さった関係者の方々のお陰です。

### ギョボクの挿し木と実生苗が順調に育っています

4月22日から25日にかけて挿し木したギョボクが海老原宅で約150本、井崎和幸様のお宅で約50本活着したほか、山川町の福永様と岩林様からいただいたギョボクの種子100粒から80本が発芽して目下順調に育っています。

この他に挿し木したランタナが50本、ヒメノウゼンカズラが30本、デュランタが20本がそれぞれ育っています。

### ギョボクの植栽総数が1000本を超えました

これまでのギョボクの植栽総数が1000本の大台に達しました。このなかには寄贈した苗木を先方で植えていただいたものも含まれますが、このように意外に早く達成出来たのは山川町のツマベニチョウ・サミットを訪れた際に、指宿市の高崎様から大量の苗をいただいたためで大変有り難いことでした。それらのギョボクは実生から丹精こめて育てられた苗で直ぐに役に立つものばかりでした。ここに改めてお礼を申し上げます。

平成 15 年 6 月 20 日

海 老 原 秀 夫